

地域づくり活動支援体制整備事業 成果報告会

【事業名】

甲田地域の有休資産とJR芸備線を活用した
「元気なまちづくり」に対する中間支援活動

成果報告

平成29年2月27日

安芸高田「元気なまちづくり」支援協議会
発表者：吉田 晋

1. 事業実施地域の課題

安芸高田市の課題

平成16年に6町が合併し、合併後10年が経過する中、予想を上回る人口減少、少子高齢化の進展や、自然災害の脅威による安全・安心意識の高まり、経済規模の縮小による地域活力の低下等の社会情勢の変化からこれまで培ってきた地域振興組織を中心とする「協働」の取り組みや、「自助・共助・公助」の支え合いの考え方が、これからはますます必要不可欠なものとなってきます。

総合計画（平成27年度から平成36年度）

テーマ「人がつながる田園都市 安芸高田」

将来像の実現に向けた3つの挑戦

- ①人が集い育つまちづくりへの挑戦
- ②安心して暮らせるまちづくりへの挑戦
- ③地域資源を活かしたまちづくりへの挑戦
(支援協議会としての重点取組)

安芸高田市 総合計画

将来像の実現に向けた3つの挑戦

① 人が集い育つまちづくりへの挑戦

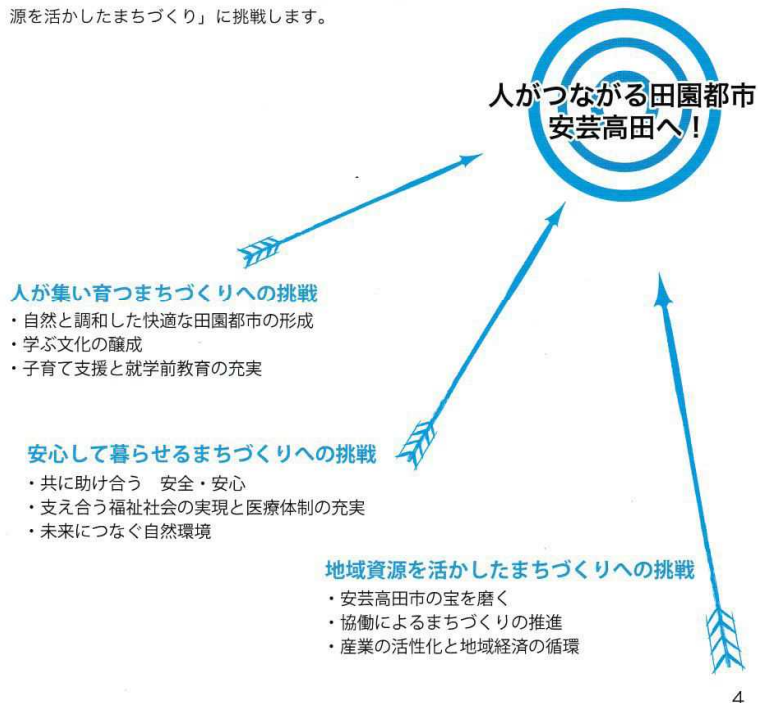
自然と都市機能がバランスよく調和した、誰もが安全で快適に暮らせる田園都市を目指すとともに、学ぶ文化の醸成を図り、更に就学前教育と子育て支援の充実を目指し、「人が集い育つまちづくり」に挑戦します。

② 安心して暮らせるまちづくりへの挑戦

「自助・共助・公助」による地域防災、福祉社会、医療体制の充実と、美しい安芸高田の自然を次世代に引き継ぐことを目指し、「安心して暮らせるまちづくり」に挑戦します。

③ 地域資源を活かしたまちづくりへの挑戦

安芸高田市の宝を磨き活用することにより、地域の活性化につなげます。また、「住民と行政の協働によるまちづくり」を基盤に据え、産業の活性化と地域経済の好循環を目指し、「地域資源を活かしたまちづくり」に挑戦します。



目指す都市像 Ⅲ

地域資源を活かしたまちづくりへの挑戦

政策目標 7：安芸高田市の宝を磨く

安芸高田市の自然や歴史・伝統文化、産業や特産品、トップスポーツ等地域の宝に磨きをかけ、これらの地域資源を活用した取り組みを推進します。また、多様な受け皿の充実を図ることにより、多くの人々の来訪欲を高め、交流による地域振興及び地域経済の活性化を図ります。

更に、次世代に地域の歴史や伝統文化を伝承する取り組みを強化することにより、市民の郷土に対する愛着と誇りを醸成します。

政策目標 8：協働によるまちづくりの推進

安芸高田市の均衡ある発展と住民福祉の向上を目指し、「住民と行政の協働のまちづくり」を基盤とした行政活動を推進します。そして、地域振興組織の取り組みによる「自らの地域は自らの手で」とした自主的活動を通して、ふれあいと活気ある地域コミュニティづくりを推進します。

更に、男女共同参画や多文化共生の考えに基づき、あらゆる立場の市民が、性別や国籍等を超えて、お互いの人権を尊重しながら共に生きることができる地域社会の形成に努めます。

政策目標 9：産業の活性化と地域経済の循環

安芸高田市の経済を支える主要産業である農業や製造業をはじめ、林業及び水産業の活性化に取り組みます。また、インターネット環境を充実させることにより、ICT産業やサテライトオフィス等新たな産業の創出を図ります。

更には、医療福祉業や柔軟な発想を活かした起業への支援を通し、多様な働く場、働き方の創出を図るとともに、6次産業化や観光の振興、商店や商業地域の活性化を促進することにより、地域内経済の好循環を目指します。

甲田地区の挑戦

③地域資源を活かしたまちづくりへの挑戦

目標Ⅰ：甲田地区の宝を磨く

甲田地区の自然や歴史、伝統文化、産業や特産品、トップスポーツ等地域の宝に磨きをかけ、これらの地域資源を活用した取り組み活性化を図る。

目標Ⅱ：協働によるまちづくりの推進

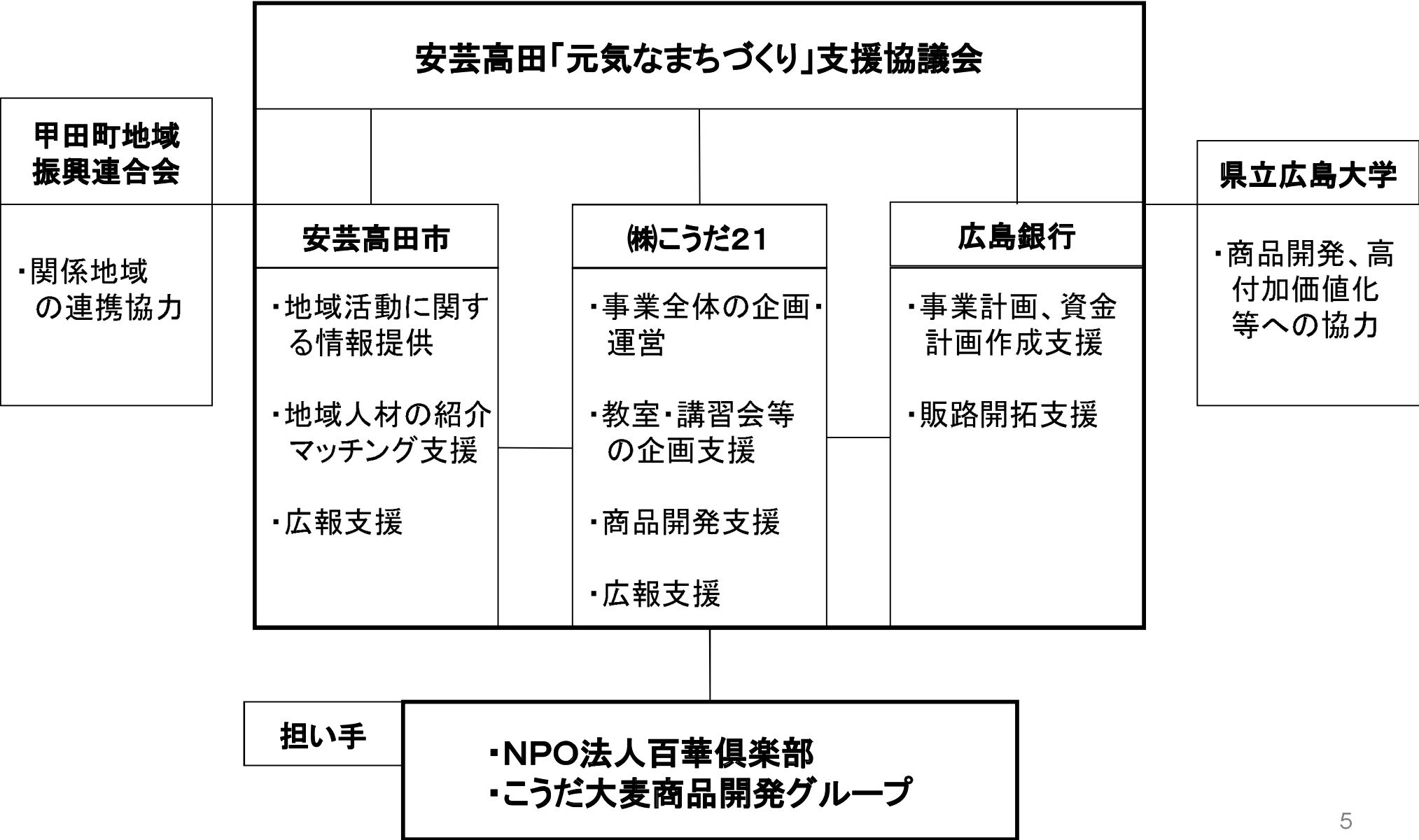
地域振興組織の取り組みによる「自らの地域は自らの手で」とした自主活動を通して、ふれあいと活気ある地域コミュニティづくりに取り組む。

目標Ⅲ：産業の活性化と地域経済の循環

甲田地区の経済を支える主要産業である農業や製造業等の活性化に取り組む。

6次産業化や観光の振興、商店や商業地域の活性化を促進する。

(3)事業の実施体制図



(4) 支援活動フロー

取組1 (H28.9)
協議会の活動基盤の構築

取組2 (H28.9～H29.2)

空き店舗・空き家利活用支援

廃業フードセンターを活用した各種教室の企画・広報活動支援を行う。

また、空き店舗・空き家を活用した交流会、民泊活用に向けた検討支援を行う。

(9月)

・教室、講習会等の企画検討会支援

(10～2月)

・教室、講習会の運営支援、広報支援

(2月)

・ふりかえり、来年度以降に向けた運営体制の検討

教室・講習会等の開催プログラム、
運営体制の確立

取組3 (H28.9～H29.2)

大麦(もち麦)の商品開発事業支援

大麦(もち麦)による機能性食品、高付加価値商品開発に関して、県立広島大学等と連携して支援を行う。食品コーディネータとの指導・助言支援を行う。

(9月～12月)

・高付加価値商品のコンセプト、商品イメージ等の検討支援

(12～1月)

・試作、販路開拓支援

(1～2月)

・テストマーケティング

「キラリモチ」(もち麦)を使った
高付加価値商品化

2. 事業概要

(1) 事業の実施体制

構成主体(協議会)	協議会メンバーの役割
(株)こうだ21 甲田にある甲立駅舎を 管理する第三セクター	協議会の運営事務局として、事業全体の企画・運営、メンバーとの調整、担い手との調整等に取り組む。
安芸高田市	市や県の補助事業等の各種支援制度の紹介、協力・連携により地域活性化につながることを期待できる地域関係者(事業者等)の情報提供等を行う。また、市が持つ広報ツールを使った広報支援、人材紹介等行う。
広島銀行	実現可能な事業計画の策定に対する助言・指導を行う。また、広島銀行が有するネットワークを活用して、販路開拓等の支援も行う。

担い手	これまでの活動内容	本事業で新たに取り組む内容
NPO法人百華倶楽部	自然環境を活かした地域コミュニティづくりを推進する事業活動を行っている。	NPOが維持管理する空き家、空き店舗の利活用の構築。
こうだ大麦商品開発グループ	商工会の青年部を中心としたメンバーが地域特産品等の掘り起こしを模索している。	地域の農業法人が栽培する機能性大麦(もち麦)の商品化に取り組み、産地化と特産品づくりに取り組む。

(2) 中間支援活動の内容（地域資源を活かしたまちづくりへの挑戦）

取組1: 支援協議会の活動基盤の構築（甲田地区の宝を磨く）

- ・(株)こうだ21を中心とする協議会は、支援協議会として取り組む中間支援活動の基本計画及び実施計画を策定するとともに協議会ウェブサイトを構築し、協議会の支援内容の明確化と周知を図る。

取組2: 空き店舗・空き家利活用支援（協働によるまちづくりの推進）

- ・担い手である「NPO法人百華倶楽部」が管理する空き店舗・空き家利活用事業を支援する。具体的には、交流人口の増加につなげることを目的として、廃業しているフードセンターにおいて、現在取り組んでいる各種教室、イベント等のプログラム企画や広報等について専門家からの助言・指導を行いながら交流人口の増を図る。NPO活動の企画・運営の支援や、チラシやウェブサイト等を活用した後方支援を行う。

取組3: 大麦商品開発事業支援（産業の活性化と地域経済の循環）

- ・担い手である「こうだ大麦商品開発グループ」は地域の農業法人で栽培される「キラリモチ」という機能性大麦を使った高付加価値食品の商品開発の取り組みを支援する。具体的には、県立広島大学や食品コーディネータ等の専門家の助言・指導を受けながら、大麦を加工して付加価値をつけた商品化を支援する。

3. 各取組の概要

取組1: 支援協議会の活動基盤の構築 実行工程表

取組内容・実施主体		9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月	備考
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	
構築支援協議会の活動基盤の	1. 臨時職員雇用	支援協議会																			
	2. 旅費	支援協議会																			
	3. 広報HP構築	支援協議会																			
		HPの構成、デザイン			HPの開始			HPの管理			問い合わせの受付										

取組2: 空き家・空き店舗の活用 実行工程表

取組内容・実施主体		9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月	備考
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	
空家・空き店舗の活用	A. 商業スーパーマーケットの活用	支援協議会																			
		講演内容の調整			講師の募集／講演内容の検討等																
	エコストープ作り教室とミニ講演開催	NPO法人百華倶楽部																			
		情報の提供、顧客の集			25日間																
	爆製器作りとミニ講演開催	NPO法人百華倶楽部																			
		情報の提供、顧客の集			23日間																
	爆製料理教室とミニ講演開催	NPO法人百華倶楽部																			
		情報の提供、顧客の集			27日間																
	地域コミュニティ座談会とミニ講演会	NPO法人百華倶楽部																			
		情報の提供、顧客の集			29日間																
	B. 池ノ内地区の空き家の活用	協議会																			
		専門家講師の調整／講演内容の検討																			
	①講演会開催	NPO法人百華倶楽部																			
		情報の提供、顧客の集			14日間			講師：羽生健臣													
	②講演会開催	NPO法人百華倶楽部																			
		情報の提供、顧客の集			3日間			講師：斎藤道子													
	③講演会開催	NPO法人百華倶楽部																			
	④里山体験会1	NPO法人百華倶楽部																			
		情報の提供、顧客の集			11日間																
	⑤里山体験会2	NPO法人百華倶楽部																			
	⑥日本文化体験会	NPO法人百華倶楽部																			
		情報の提供、顧客の集			9日間																
	⑦里山研修会(安芸高田市観光課)	NPO法人百華倶楽部																			
	C. 古田口駅前の空き家の活用	協議会																			
		空き家利活用の調整			専門家講師の調整／勉強会の内容検討																
	勉強会開催	NPO法人百華倶楽部																			
		情報の提供、顧客の集			15日間			講師：菅我部誠													
	勉強会開催	NPO法人百華倶楽部																			
		情報の提供、顧客の集			9日間			講師：環境文庫													

取組3: 大麦を使用した高付加価値商品の開発 実行工程表

取組内容・実施主体			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月	備考								
			上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬									
大取組を3使用した高付加価値商品の開発	1. 県立広島大学との共同研究・商品開発	協議会	高付加価値商品の検討会議																											
			9/7日、14日、27日		10/6日、12日、18日、26日			11/9日、16日、24日			12/2日、7日、14日、22日、28日			1/11日、18日、24日			2/1日、8日 予定22日													
												機能性食品表示勉強会 21日参加																		
		協議会／大麦開発G							フリーズドライ商品のサンプル製造																					
									11/9日、16日、24日			12/2日、7日、14日、22日、28日			1/11日、18日、24日			2/1日、8日 予定22日												
	2. 大麦商品化の調査・研究・サンプル品	協議会	食品会社ヤマトフーズとの協議、食品サンプル																											
			大麦の商品サンプル製造																											
	3. 大麦の製粉加工	協議会／大麦開発G				㈱ジェイウイングファーム																								
					大麦の製粉加工(5kg)																									
4. 大麦の真空パック加工	協議会／大麦開発G				㈱岩谷米穀																									
					大麦の真空パック加工(1kg)																									
5. 商品企画	協議会										さんあい技術コンサルタント																			
											12/8日、14日 大麦商品化企画・機			1/12日、27日 大麦商品化コンセプト			パッケージデザイン・カレールウの提案													
6. 商品サンプル製造	協議会／大麦開発G														さんあいプランニング															
															もち麦パスタ製造依頼			カレールウの製												
7. 成分検査・生菌検査(県立広島大学)	協議会															商品化した製品の成分検査														
																B-ゲルミンの測														
8. チラシ・ポスターの制作	協議会／大麦開発G															印刷業務でのチラシ・ポスター作成														
																もち麦パスタ マスター・チラシ作														

①取組1:支援協議会の活動基盤の構築

(取組内容)

甲田地区にあるJR芸備線甲立駅舎を管理する第三セクター(株)こうだ21を中心とする協議会は、ウェブサイト構築し、協議会の支援内容等の周知を図る。

安芸高田「元気なまちづくり」支援協議会

<http://www.antakagenkishien.com/index.html>



(成果)

- ・甲田地区の自然や歴史、産業や特産品等の地域の宝の掘り起こしと磨きをかけ、これらの地域資源(空き店舗・空き家、大麦)を活用した取組のきっかけを築くことができた。

【地域づくり活動の自立・継続に向けた支援の考え方】

支援協議会が行う中間支援活動は、担い手の自主性、自律的な活動に向けた支援となることを重視しており、本事業修了後も、特産品の開発や独自事業の確立等により自立・継続した活動を行うことができるよう継続的な支援を行う。

取組2: 空き店舗・空き家利活用支援

活動工程表

			開始日			平成28年9月									…実行					
			完了予定日			平成29年2月														
実施時期 取組の名称			9月			10月			11月			12月			H29年 1月			2月		
			上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
A.廃業スーパーマーケットの利活用																				
①エコストーブ作り教室とミニ講演開催					25日															
②燻製器作り教室とミニ講演開催							23日													
③燻製料理教室とミニ講演開催									27日											
④地域コミュニティ座談会とミニ講演開催												25日			29日				26日	
B.池ノ内地区の空き家の利活用																				
①講演会開催(講師: 丹羽健司)									3日											
②講演会開催(講師: 斉藤温文)							14日													
③里山体験会			11日																	
④日本文化体験会						9日														
C.吉田口駅前の空き家の利活用																				
①勉強会開催(曾我部国久)									15日											
②勉強会開催(稲垣文彦)																	9日			
参加人数			12		12	25	9	11	25	18	20				13			13	11	

20%

58%

110%

121%

132%

141%

10

120

②取組2: 空き店舗・空き家利活用支援

協議会の中間支援活動内容

- ・廃業フードセンターを活用した各種教室開催の企画・広報検討支援
 - ・専門家講師による体験・文化交流の促進及び地区外の空き家活用等の協議を支援
- ・空き店舗・空き家を活用した交流会、民泊活用に向けた検討支援
 - ・各種教室・講演会を開催する事によりふれあいと活気ある地域コミュニティづくりを支援

- ・教室・講習会等の開催プログラム、運営体制の確立

地域づくり活動の成果目標

項 目	現 状	平成28年度目標	達成状況
空き家・空き店舗を活用したプログラム数(Pg)	現状2Pg	10Pg	11Pg (110%)
空き家・空き店舗を活用したプログラムの参加人数(人)	現状20人	120人	169人 (141%)

取組2: 空き店舗・空き家利活用支援

A. 廃業スーパーマーケットの利活用

取組:「エコストーブ作り教室とミニ講演」
日時:平成28年9月25日(日)10:00~15:00
場所:安芸高田市甲田町高田原1371-9
ダイヤモンドセンター
講師:西山 昭憲
参加人数:12名
補助員:3名

参考資料:1



9/25
エコストーブ作り教室とミニ講演

取組:「燻製器作り教室とミニ講演」
日時:平成28年10月23日(日)10:00~15:00
場所:安芸高田市甲田町高田原1371-9
ダイヤモンドセンター
講師:西山 昭憲
参加人数:11名
補助員:3

参考資料:2



10/23
燻製器作り教室とミニ講演

取組2: 空き店舗・空き家利活用支援

A. 廃業スーパーマーケットの利活用

取 組:「燻製料理教室とミニ講演」

日 時:平成28年11月27日(日)10:00～15:00

場 所:安芸高田市甲田町高田原1371-9
ダイヤモンドセンター

講 師:西山 昭憲

参加人数:20名

補助員:3名

参考資料:3



11/27

燻製料理教室とミニ講演

取 組:「地域コミュニティ座談会とミニ講演」

日 時:平成28年12月25日(日)10:00～15:00

場 所:安芸高田市甲田町高田原1371-9
ダイヤモンドセンター

参加人数:13名

補助員:3名

参考資料:4



12/25

地域コミュニティ座談会とミニ講演

取組2: 空き店舗・空き家利活用支援

B. 池ノ内地区の空き家の利活用

取組:「里山体験会(薪割り、木工体験)」
日時:平成28年9月11日(日)10:00~15:00
場所:安芸高田市甲田町上小原 翠月山荘
講師:西山 昭憲
参加人数:12名

参考資料:7



9/11
里山体験会

取組:「日本文化体験会」
日時:平成28年10月9日(日)10:00~15:00
場所:安芸高田市甲田町上小原 翠月山荘
講師:錦川流 師範 錦川清之
／村上三絃道 広島支部 師範 村上進輝
参加人数:25名

参考資料:8



10/9
日本文化体験会

取組2: 空き店舗・空き家利活用支援

B. 池ノ内地区の空き家の利活用

取 組:「講演会(斎藤温文)」
日 時:平成28年10月14日(日)17:00~20:00
場 所:安芸高田市甲田町上小原 翠月山荘
講 師:斎藤 温文
参加人数:9名

参考資料:9



10/14
講演会(斎藤温文)

取 組:「講演会(丹羽健司)」
日 時:平成28年11月3日(木)13:00~17:00
場 所:安芸高田市甲田町上小原 翠月山荘
講 師:丹羽 健司
参加人数:25名

参考資料:10



11/3
講演会(丹羽健司)

取組2: 空き店舗・空き家利活用支援

C. 吉田口駅前の空き家の利活用

取 組:「勉強会」

日 時:平成28年11月15(火)13:00～16:00

場 所:安芸高田市甲田町吉田口駅前
プラットハウス

講 師:出雲科学館 名誉館長 曾我部国久

参加人数:18名

参考資料:11



11/15
勉強会(曾我部国久)

取 組:「勉強会」

日 時:平成29年2月9(木)17:00～19:00

場 所:安芸高田市甲田町吉田口駅前
プラットハウス

講 師:稲垣文彦

参加人数:11名

参考資料:12



2/9
勉強会(稲垣文彦)

取組2: 空き店舗・空き家利活用支援

A. 廃業スーパーマーケットの利活用

取組: 「地域コミュニティ座談会とミニ講演」
日時: 平成29年1月20日(日)10:00~15:00
場所: 安芸高田市甲田町高田原1371-9
ダイヤモンドセンター
参加人数: 13名
補助員: 3名

参考資料: 5



1/29
地域コミュニティ座談会とミニ講演

取組: 「地域コミュニティ座談会とミニ講演」
日時: 平成29年2月26日(日)10:00~15:00
場所: 安芸高田市甲田町高田原1371-9
ダイヤモンドセンター
参加人数:
補助員:

参考資料: 6

2/26(開催予定)
地域コミュニティ座談会とミニ講演

③取組3:大麦商品開発事業支援

協議会の中間支援活動内容

- ・大麦による機能性食品、高付加価値商品の開発支援
 - ・機能性表示食品セミナー及び6次産業化、農商工連携フォーラムの参加等による基礎知識の習得
- ・県立広島大学や食品コーディネーターの専門家との連携支援
 - ・県立大学からのもち麦商品の特性や商品化に向けてのアドバイスを受け、災害用の保存食としての商品化を提案された。
 - ・食品コーディネーターからもち麦の機能性を活かしたと売れるモノづくりの助言を得、広島や安芸の宮島をイメージしたもみじパスタの商品化を提案をされた。

- ・「キラリモチ(大麦)」を使った高付加価値商品化
 - ・大麦の商品化と産地化による荒廃した農地等の再生や農業所得の向上を図る。

地域づくり活動の成果目標

項 目	現 状	平成28年度目標	達成状況
大麦を使った商品開発	—	1つ以上を商品化 (来年度より販売)	フリーズドライ もみじパスタ カレールウ

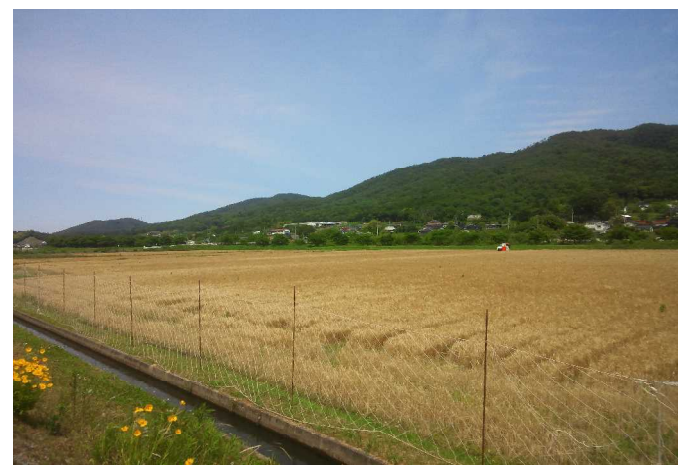
取組3:大麦商品開発事業支援



生産法人、農研機構との協議



大麦(もち麦)圃場確認



H28年産 大麦「キラリモチ」収穫圃場



大麦(もち麦)「キラリモチ」

取組3:大麦商品開発事業支援

大麦(もち麦)「キラリモチ」の機能性

1. 食物繊維が豊富
玄米の約3倍、白米の約20倍
2. β -グルカンが豊富

大麦の健康効果

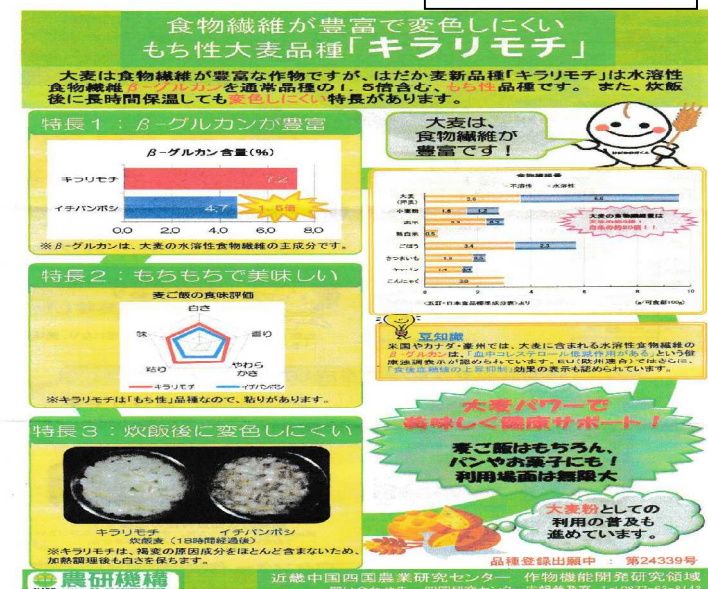
- ①血中コレステロール低下
- ②食後の血糖値の低下
- ③メタボリックシンドロームの改善
- ④高血圧の低下
- ⑤便秘解消

(農研機構 資料より)

参考資料:13



参考資料:14



取組3:大麦商品開発事業支援

●大麦(もち麦)1次加工:真空パック加工

(原材料の酸化防止)

:製粉加工

(製粉による加工品としての商品化)



大麦(もち麦)真空パック



大麦(もち麦)製粉加工

取組3:大麦商品開発事業支援

商品化(1)

- 県立広島大学と9月～2月まで、月3回～4回 商品化検討会、大麦のフリーズドライ商品化
精麦した大麦(もち麦)のフリーズドライ商品化
- 機能性表示食品セミナー・相談会プログラム (参考資料:15)
平成28年12月21日(水) 12:55～15:30 協議会・大麦開発G 参加
- 6次産業化・農商工連携フォーラムin広島 (参考資料:16)
平成29年2月9日(木) 13:30～16:30 協議会・大麦開発G 参加
- 平成28年度品種情報提供事業「品種マッチングミーティング」(参考資料:17)
兼:「高 β ーグルカン大麦利用連絡会」第3回オフラインミーティング
平成29年2月21日(火) 13:00～17:00 協議会 参加
- 商品の β ーグルカンの測定



県立広島大学 庄原キャンパス



フリーズドライ商品(県立広島大学)



フリーズドライ商品(県立広島大学)

取組3:大麦商品開発事業支援

商品化(2)

- 広島銀行から紹介された「食とものづくりの総合コンサルタント」さんあい技術コンサルタント
12月～大麦(もち麦)製粉の商品化企画協議、もち麦パスタの商品企画提案
- 大麦商品コンセプト、パッケージデザイン
- 大麦商品化サンプル製造(さんあいプランニング)
- 大麦カレールウの商品化提案



もみじパスタデザイン



もみじパスタ



カレールウ

取組3:大麦商品開発事業支援

商品化(3)

●もち麦パスタの評価・商品化決定会議

●もち麦パスタアンケート調査



もち麦パスタ アンケート

※該当項目に○を記入してください。

1. もち麦品種「キラリモチ」を知っていますか。

①知っている。 ②聞いたことがある。 ③知らない。

◎何の媒体を通じて知りましたか。(知っていると答えた人)

①テレビ ②雑誌 ③書籍 ④インターネット ⑤新聞 ⑥その他 ()

2. もち麦の健康効果「食物繊維が豊富である」を知っていますか。

①知っている。 ②聞いたことがある。 ③知らない。

3. もち麦の健康効果「β-グルカン」を知っていますか。

①知っている。 ②聞いたことがある。 ③知らない。

4. もち麦パスタの味は、いかがでしたか。

①美味しかった。 ②普通に食べられる。 ③美味しくなかった。

5. もち麦パスタの形(デザイン)は、いかがでしたか。

①かわいい(オシャレ) ②特に興味がない。 ③別の形(デザイン)が良い。

6. もち麦パスタが商品化されたら購入したいですか。

①購入したい。 ②美味しくできたら購入したい。 ③購入しない。

7. もち麦パスタ(100g)の価格はどれくらいが良いと思いますか。

①500円 ②750円 ③その他 ()円

8. 機能性食品表示の事を知っていますか。

①知っている。 ②聞いたことがある。 ③知らない。

◎性別: ①男性 ②女性

◎年齢: ①20代~30代 ②40代 ③50代 ④60代 ⑤70代 ⑥その他

◎職業: ①会社員 ②主婦 ③学生 ④無職 ⑤その他 ()

アンケートにご協力ありがとうございました。

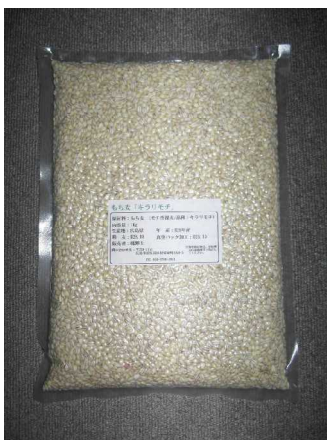
アンケート情報は、もち麦の普及と商品化に関する資料のみに利用させていただきます。他に使用することはありません。

こうだ大麦商品開発グループ 担当: 今村

取組3:大麦商品開発事業支援

(4)商品化対応

- 食品メーカーとの協議(広島銀行からの情報提供)
2月中旬以降 (株)〇〇、〇〇中食、〇〇観光等
- 29度の事業化体制づくり
- 機能性食品表示申請 県立広島大学との連携



4. 中間支援における課題と対応

◎中間支援の特徴、苦勞した点、工夫した点

苦勞した点:NPO法人百華倶楽部のイベント開催についての開催目的、開催後のフォロー支援

:大麦(もち麦)の特徴を活かす商品化の難しさ

グルテンフリーの為、小麦と同様の商品化が難しい。

工夫した点:専門家講師の派遣、講演「テーマ」等で空き店舗・空き家の講演・勉強会に参加した方々の次回参加及び他地区からの参加者の動員に配慮した。

:専門家(県立広島大学、食とものづくり総合コンサルタント)との連携を重点的に商品化の企画・提案助言

◎体制として連携する上での苦勞、留意している点など

苦勞した点:NPOとの協議、打ち合わせ会議等の合意形成に時間がかかる。

工夫した点:メールや電話等による情報共有、意見交換

◎体制として行っている広報の状況

苦勞した点:担い手との打合せが不十分のため、協議会のホームページの十分に活用されなかった。

工夫した点:紙媒体のチラシを駅舎構内に添付

◎貴体制の成長(スキル、ノウハウの蓄積など)につながった点

:大麦の商品開発に関して、専門家等からのアドバイスにより、商品化のコンセプトデザイン等の参考になった。

3. 各取組の概要

④広報に関する取組

（担い手の活動に関する広報）

協議会の公開したしたホームページによって担い手の活動をアップしている。

大麦の商品開発に関しては、情報開示していない為、商品化が確定するまでは、情報開示や告知が難しい。

2月までは、制作先の会社により月1回の更新の為、リアルタイムに情報が掲載しにくい状況がある。

但し、3月以降は、更新の際のマニュアルを作成して協議会が運営・管理できるように準備している。

（中間支援体制に関する広報）

昨年の7月に設立した協議会の為、地域（甲田地区）に対しての周知活動が不十分である。

次年度に向けての取組方針や周知活動を支援協議会のメンバーである、安芸高田市・広島銀行と連携を図って取り組んでいく。

29年度以降の「支援協議会」の取組方針

観光・交流の振興	地域資源を活かした商品開発や観光プログラムの検討と実践に取り組む。 SNS等を活用した情報発信に取り組む。
参加と協働による まちづくりの推進	地域課題等について話し合い、解決に向けて取り組む。 行政情報等の積極的な収集に努め、広聴・広報活動に取り組む。
地域ならではの 楽しみを創造する	趣味やスポーツ、地域活動等を通した生きがいづくり・楽しみづくりに取り組む。 地域資源を活かした商品開発等を通して、地域産業の育成に取り組む。
多数な人と つながる	活動の核となる地域振興組織への支援ほか、若者、女性、外国人等、多様な人がつながる仕組みづくりに取り組む。 また、若者等の地域活動に対する関心度向上に向け、効果的な広報活動の推進に取り組む。
地産地消 サイクルを回す	農産物等の生産体制強化を図るとともに、これら市内取扱量の拡大、消費者の地元での購買意欲を喚起させ、地産地消サイクルの拡大を図る。
外貨を獲得する	観光資源の充実、地域資源を活かした商品開発、受け入れ体制の強化、積極的なPRの推進等を通じて、観光産業や6次産業の活性化を促し、外貨獲得サイクルの拡大を図る。 地元商工業者に対する支援を推進し、競争力のある産業の育成を図る。

事業1

事業名：JR芸備線甲立駅を起点とした観光産業振興の中間支援活動

内容：甲立古墳（前方後円墳）、湧永庭園の甲立高原観光ルート開発に向けてのレンタサイクル、観光案内広報等の充実支援。

担い手として想定している（仮）甲田地域まちおこし隊及びツールドひろしま安芸高田実行委員会に対して、観光ルートの開発や駅舎からのレンタサイクル事業の展開に向けた企画開発支援や広報支援を実施する。

「芸備線利用促進市民の会」と協議会を連携を図り、芸備線の利用促進を図った企画・広報支援を実施する。

JR芸備線を利用した観光客の増、移住人口の増による空き家・空き店舗の利活用促進等、全体としての遊休資産活用、観光事業をベースとした新産業起こしの支援をし、駅前商店街の活性化（再生）を図る「元気なまちづくり」のモデルを確立させる。

実施期間：平成29年～30年

実施場所：安芸高田市甲田地区

活動費用：特色ある町づくり補助金

事業2

事業名：講演会・イベント等を通じた産業創出、企業・創業支援

内容：空き店舗、空き家を活用した新規産業開発や起業・創業支援に関する講演会、交流会の実施
NPO法人百華倶楽部を担い手として、有識者を招待して、バイオマス利用、町おこし等に関する講演会や交流会の企画・運営を支援する。
また、里山体験学習広場の開設を支援し、休耕田などを利用して都市児童に農林業体験の場づくりを支援する。
併せて、講演会・イベント開催支援を通じて、協議会の広報、PRも行う。

実施期間：平成29年～30年

実施場所：安芸高田市甲田地区

活動費用：特色ある町づくり補助金

事業3

事業名：地域経済の好循環推進支援

内容：新たな機能性大麦（もち麦）の栽培と生産体制の整備
もち麦パスタの商品化と販路拡販
観光資源の充実、地域資源を活かした商品開発（パスタソース）
積極的なPR活動と観光産業との連携
大麦の商品化による外貨獲得
地元商工業者と連携し、競争力のある産業の育成を図る
大麦に代わる次の商品の選定
6次産業化の活性化と事業化に向けた取り組み

実施期間：平成29年～30年

実施場所：安芸高田市甲田地区

活動費用：特色ある町づくり補助金

5. 中間支援体制としての成果

事業を通じて、体制メンバーの関係性の変化や一緒に取り組んだことで生まれた成果、良かったこと

- 安芸高田市からの情報提供、総合計画の詳細等が把握できた。
- 生産基盤の取組や今後の体制整備情報の把握
- 金融機関からの推薦による「食の専門コーディネーター」の指導・助言による、商品化が図れた。
- 次年度以降の商品開発等の資金計画の協力
- 販路確保のための金融機関からの企業情報の提供
- 地域振興組織等の連携の下、空き家活用情報の提供